

高等学校社会系教科における 批判的思考力を育成する授業開発の研究 (I)

—公民科「倫理」の場合—

下前 弘司 小原 友行 池野 範男 棚橋 健治
草原 和博 鶴木 毅 大江 和彦 土肥大次郎
蓮尾 陽平 見島 泰司 森 才三 山名 敏弘

1. はじめに

主体的に社会事象を考察し、問題解決方法などを考えていくためには、物事をより客観的に理解し、把握することが求められる。そのために必要なスキルとして、批判的思考力が挙げられる。そこで、社会系教科を通じて論理的な探求法および推論の方法を習得し、それらの方法を適用する技術を身につけ、批判的思考力を育成する授業を、高等学校の社会系教科を事例に開発する。

本稿では、公民科「倫理」に関する授業開発を行う。

2. 批判的思考（クリティカルシンキング）について

現在、広島大学附属福山中・高等学校では、批判的思考、すなわちクリティカルシンキングを柱に据え、これまでの研究開発の成果と課題をふまえて、複眼的でグローバルな視点とローカルな視点を併せ持った（グローバルな）問題解決力と読解力の育成を目指してカリキュラム及び授業開発を行っている。当校では、クリティカルシンキングを以下のように捉えている。

クリティカルシンキングは批判的思考とも訳されるが、「相手を批判する」という意味ではなく、「適切な規準や根拠に基づき、論理的で偏りのない思考」をするという意味を持ち、「よりよい解決に向けて複眼的に思考し、より深く考えること」を意味するⁱ。

クリティカルシンキングの視点が有効であると考えられる理由は、論理的思考力や読解力、表現力を育成するための基礎として、幅広い視点（複眼的視点）を養い対象とする情報に関する的確な判断や表現を行う必要があるからである。以上のような考え方を出発点とし、課題を発見し解決方法を模索して解決に向かって努力

する問題解決力の育成と、コミュニケーションを図り的確に意見をまとめ表現する言語能力の育成を重視して授業開発を行っている。

クリティカルシンキングには、ある人の議論がどのような背景で語られているのか、根拠となる事実や理論はどのようなものかなどをじっくり考え、正しい結論を導こうとする態度が必要だが、倫理という科目は特にその議論の背景をいかに読み解くかに大きく関わっていると考えている。ある論者の思想背景は何か、言い換えれば思考の枠組みは何かを読み解くために、先哲の思想を学ぶことは非常に有意義であると考えられる。つまり、先哲の思想を学ぶことは、「見かけに惑わされず、多面的に捉えて、本質を見抜く」ⁱⁱというクリティカルシンキングの能力育成に大きく寄与する。

また、倫理という科目の目的の一つとして、異文化理解およびその受容、還元すれば価値多元主義的なものの見方を身につけさせることを挙げるならば、学びの対象となる異文化そのものをクリティカルに読み解いていくことが必要となろう。異文化をクリティカルに読み解くことについては、以下のような定義がある。

「異文化をクリティカルに読み解く作業」とは、ある異文化に接触したときに、自分自身がその文化に対してもっている視点や考え方に関する内省を繰り返す、その文化に関する情報を集めることや、様々な角度からの新たな批判的検討を加えることを通して、その文化についての、より深く、相対的で、複合的な理解にたどりつくことⁱⁱⁱ。

この「異文化をクリティカルに読み解く作業」を行うにあたっては、その文化の背景にある人間観や世界観を理解することが必要となる。その人間観や世界観

Koji Shimomae, Tomoyuki Kobara, Norio Ikeno, Kenji Tanahashi, Kazuhiro Kusahara, Takeshi Unoki, Kazuhiko Ooe, Daijirou Dohi, Youhei Hasuo, Taiji Mirushima, Saizou Mori, Toshihiro Yamana: A study on lesson plan to develop critical thinking skills of social studies of high school (I) —ethics—

を理解する助けとなるのが、先哲の思想だと位置づけられるのではないか。

3. 先哲の思想をいかに扱うか

公民科「倫理」で主に扱われる先哲の思想を学ぶことは、規範倫理学における様々な立場を学ぶことである。例えば、ベンサム思想を通じて、功利主義という立場を学ぶのである。それぞれの立場にはそれぞれの人間観、世界観がある。よって、先哲の思想を学ぶということは、様々な人間観・世界観を学ぶということになる。先哲の思想の背景にあるこの人間観・世界観につながる問いを投げかけることによって、生徒自身が自らの人間観・世界観を構築することにもつながるとともに、先哲の思想自体を相対化することもできる。例えば、西洋近代思想を扱う際に、「人間は理性的なのか。完全に正しいことを認識しうるのか。」「自分はいつも合理的判断を下しているといえるだろうか。」「というような人間観に関わる問いを加えるのである。この人間観などの条件を問い直すことは、先哲の思想の根幹を問い直すことにつながるから、これはまさに批判的思考そのものだと考えられる。それは、批判的思考力を育成するには、まず対象となる事象の思想背景を理解することが必要となり、またそれとは異なる思想背景をもって検討し直すことが必要となると考えるからである。

先哲の思想を手がかりにして、「どのような人間観・世界観があり、それが自分の考え方とどう違うのか、その考え方が現代においてどのような形で用いられているのかを考える」といったような仕方で、規範倫理的な内容を扱うのが適切なのではないか。

4. 規範倫理的授業構成の考え方

先哲の思想を学ぶにあたってはまず、先哲が何を問題にしたのかを考えなければならないだろう。すなわち、対象となる先哲の問題意識がどこにあったかである。これを、その先哲の立場すなわち人間観と世界観から探求していくというのが一つの型となる。

人間観および世界観は、やはりその先哲が哲学史上どのような位置づけにあるか、すなわちどのような人間観・世界観を引き継いでいるか、もしくは全く新しいものを構築したのかをまず正確に捉えなければならない。その上で、現代に生きる生徒が経験するであろう具体例を示さなければ、焦点がぼやけてしまうことになる。では、その人間観・世界観を探求するには、どうすればいいだろうか。それは、人間観に関しては先哲の生い立ちや、傾倒ないしは批判しようとしたした哲学者、時代背景などを考えることによって探求が

可能となると考える。また、世界観に関しては、先哲が生きた当時の世情・歴史的事件や傾倒ないしは批判した思想、そして科学技術など諸学の展開を考えることによって探求が可能となろう。つまり、先哲の人間観や世界観は具体的な事例によって探求していくことが可能なのである。また、そうすればこそ、人間観や世界観を一方向的に注入する危険性を回避することができ、先哲の思想を相対的にとらえることにもつながる。この人間観と世界観の探求を通じて、さらに先哲が残した、あるいはそれに関わる文献などからその思想を象徴する要語を理解することへとつなげていく。その上で、先哲が問題意識を持った事象を考えていくというプロセスが妥当なのではないだろうか。

5. 授業構成の具体

以上のような考え方に基づいて、単元「鎌倉新仏教」の中の、「親鸞 ―信仰とは何かを考える―」という授業を開発した。具体的には以下のような構成とした。

- 導入……親鸞が生きた時代の状況から、親鸞が採用した世界観を確認する。
- 展開1…なぜ親鸞が末法思想という世界観を採用したのかを、仏教の人間観から探求・考察させる。
- 展開2…末法思想および大乘仏教の人間観から親鸞がもった問題意識とは何かを探求・考察させる。
- 展開3…親鸞が、救いの問題をどのように解決し、独自の思想を展開していったのかを探求・考察させる。
- 終結……親鸞の思想を手がかりに、信仰とは何か、そして信仰というありかたが今日でも広く受容されているのはなぜかを考察させる。

6. 成果と課題

先哲の思想の取り扱いについて、指導案の実践や類型化を行った先行研究^{iv}をふまえ、今回開発した授業との関係を明らかにする必要がある。また、社会科そして倫理という科目におけるクリティカルシンキングの位置づけをより明確にすること、そして規範倫理的な授業から応用倫理的な授業へと展開していくことについて、理論化していくことが必要であろう。

〔参考資料〕 高等学校公民科倫理「親鸞 ―信仰とは何かを考える―」学習指導案

1. 単元 鎌倉新仏教

2. 単元の目標

現代でも大いに受容され信仰の対象となり、現代に生きる人々の行動指針のひとつもなっている鎌倉新仏教とはどういうものを学び、現代に生きる人々への理解を深める。また、鎌倉新仏教から仏教の人間観・世界観の展開を学び、人類が長きにわたって重要視してきた信仰とは何か、人間が物事を理解するために必ず用いる言葉とは何かといった問題を考えさせ、思考するとはどういうことなのかを再考察させる。

3. 単元 計画 (1) 法然 ―末法思想とその展開―・・・1時間
 [全4時間] (2) 親鸞 ―信仰とは何かを考える―・・・1時間 (本時)
 (3) 日蓮 ―世界を変えるとは―・・・0.5時間
 (4) 禅 ―言葉とは何だろうか―・・・1.5時間

4. 単元の評価基準

【関心・意欲・態度】

人間観・世界観がいかに展開されたのかを学び、現代に生きる人々への理解を深めようとしている。

【思考・判断】

鎌倉新仏教における先哲たちが提唱した考え方や、人間観・世界観を手がかりに、その先哲たちが何を考えようとしたのかを論理的に導くことができる。また、その上で現代に生きる人々、そして自分についてクリティカルに思考することができる。

【技能・表現】

先哲が残した文献を手がかりに、先哲の考えた人間観や・世界観を的確に読み解くことができる。

【知識・理解】

仏教の人間観・世界観、そして鎌倉新仏教が導き出した人間観・世界観の展開について理解している。また、信仰というものは場合によっては人間の行動指針になっていることを理解し、さらに思考とは何かを考え直すことが、クリティカルシンキングにとって重要であることを理解し、その知識を身につけている。

5. 本時の目標

- ・親鸞が生きた時代状況などから、末法思想という世界観がどういうもので、それをなぜ親鸞が採用したのかを、仏教の人間観をふまえて論理的に思考し理解する。
- ・大乘仏教の人間観と末法思想という世界観から発生する問題を解決することが、仏教者親鸞としては逃れられない問題であり、そこから親鸞独自の思想が展開したことを理解する。
- ・親鸞の思想を手がかりに、信仰すなわち信じて疑わないというあり方とは何かを考え、それと対極にあるまず疑うところから始まるというあり方を再考察し、人間の行動指針の一つである信仰について思考を深める。

6. 授業展開過程

	教師の発問	教授・学習過程	資料
導 入	・親鸞が生きた時代状況はどうであったか。	T:発問する P:答える	・戦乱や飢饉（1181年、養和の飢饉）によって洛中が荒廃し、流行り病もしばしば起きて世情が不安定な時期だった。大寺院は僧兵をかこって武力による圧力をかけ、僧たちは時の権力者と結託して権力争いをするような時代だった。
	・煩惱を断滅するために修行に専念することは、人間には不可能なのだろうか。	T:発問する P:考える	
	・そのような状況で浸透した世界観は何か。	T:発問する P:答える	・末法思想
	・浄土真宗開祖の親鸞はどのような世界観を持っていたと考えられるか。	T:発問する P:答える	・宗派の名前から分かるように、末法思想の立場を採っていた。

展 開	○なぜ、親鸞は末法思想という世界観を採用したのだろうか。 ・末法とはどういうものであったか。	T:発問する P:考える	・教えだけが残り、人がいかに修行して悟りを得ようとしても不可能な時代・世界である。 ・人（衆生）は通常、望むと望まざるとに関わらず悪業をなしてしまうが、修行によって完全な存在即ち仏(Buddha)になれる。 ・人間は仏になれないことになってしまう。
	・仏教の人間観は何であったか。	T:発問する P:答える	
1	・修行して悟りを得ることがが不可能だということになると、何か問題が生じないだろうか。	T:発問する P:考える P:答える	・修行しても悟りが得られないことを、人間自身の問題とせず、他の問題にする必要がある。
	・仏教という立場を捨てずに、この問題を解決するにはどうすればいいか。	T:発問する P:考える T:答える	
展 開	○なぜ、親鸞は末法思想という世界観を採用したのだろうか。	T:発問する P:答える	○当時の世情、そして人間が完全な存在になれるという仏教の根本的人間観を否定できないからこそ、末法思想を採用した。
	○大乘仏教の人間観はどういうものであったか。	T:発問する P:答える	
展 開	・大乘仏教において利他行を実践し、現実社会に救いをもたらす存在を何といったか。	T:発問する P:答える	○「一切衆生悉有仏性」という言葉に象徴されるように、出家をしない在家信者も含めた全ての人は仏となって救われるという思想であった。 ・菩薩という。 ・布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧の六波羅密である。
	・菩薩の実践徳目は何だったか。	T:発問する P:答える	
2	・末法の世において、このような実践は意味をなすだろうか。	T:発問する P:考える	・人々を教え導いたとしても、修行をしても仏になれないのなら意味をなさないのではないか。 ・救われないということになる。
	・意味をなさぬならば、どういうことになるか。	T:発問する P:答える	
展 開	・では、どうすれば救われるのだろうか。	T:発問する P:考える	・人々を救う仏教者である親鸞にとって、最大の問題であった。
	○親鸞は、どのように考えただろうか。	T:発問する P:考える T:説明する	
展 開	・『教行信証』の冒頭には何が書かれているか。	T:発問する P:資料読解 T:説明する	①・阿闍世(アジャータートル)が父(ビンピサーラ)を死に至らしめた、いわゆる「王舎城の悲劇」話に触れられている。
	・なぜこの説話が採用されたのか。	T:発問する P:資料読解 T:説明する	
3	・『大無量寿経』の除外規定があることと等しいことはなにか。	T:発問する P:考える T:説明する	②・父を殺害することは五逆とあって、親鸞が重視した『大無量寿経』からすると、救いの対象とはならないはずである。しかし、阿闍世は救われ、仏法の保護者ともなったことに、救いとは何かを解くカギがあるのではないかと考えたからである。 ・阿弥陀如来の救済力は有限だという解釈が可能となる。
	・ということはどういうことか。	T:発問する P:考え、 答える	

終 結	○その時、人はどのような仕方での状況を脱するのだろうか。	T:発問する P:考え、 答える	○自分の思考や行動をもう一度とらえ直して、気付いていないことはないか、間違いはないかを考え直すことだけではなく、信仰を選び取るということも考えられる。 ○人間が生きていく上で、行動の選択肢として大きな意味を持っているからだろうか。
	○科学技術が大いに発展した今日でさえ、信仰というあり方が大いに受け入れられているのはなぜだろうか。	T:発問する P:考える	

資料①：真宗聖典編纂委員会編『浄土真宗聖典—注釈版—』本願寺出版部，1988年，pp.131抜粋（『教行信証』冒頭）

資料②：同上，pp.212-213より抜粋（『教行信証』信巻冒頭部）

引用（参考）文献

- 1) 宇都宮芳明『倫理学入門』放送大学教育振興会，1997
 - 2) 越智 貢ほか著『シリーズ〈人間論の21世紀的課題〉⑥教育と倫理』ナカニシヤ出版，2008
 - 3) 訓覇曄雄，有福孝岳編『倫理学とはなにか その歴史と可能性 新版』勁草書房，1989
 - 4) 小坂国継，岡部英男編著『倫理学概説』ミネルヴァ書房，2005
 - 5) 児玉康弘「「公民科」における解釈批判学習—「先哲の思想」の扱い—」，社会系教育学会『社会系教科教育学研究』第16号，2004
 - 6) 社会認識教育学会編『公民科教育』学術図書，1996
 - 7) 鈴木 健ほか編『クリティカル・シンキングと教育 日本の教育を再構築する』世界思想社，2006
 - 8) 全国社会科教育学会『社会認識教育学研究ハンドブック』明治図書，2001
 - 9) 全国社会科教育学会編『社会科教育のニュー・パースペクティブ—変革と提案—』明治図書，2003
 - 10) 全国社会科教育学会編『社会認識教育の構造改革—ニュー・パースペクティブにもとづく授業開発—』明治図書，2006
 - 11) 全国社会科教育学会編著『中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』明治図書，2007
 - 12) 棚橋健治『社会科の授業診断—よい授業に潜む危うさ研究—』明治図書，2007
 - 13) 道田泰司「合理性と批判的思考」，『琉球大学教育学部紀要』第61号，2002，pp.99-110.
 - 14) 道田泰司「批判的思考—よりよい思考を求めて—」，森 敏昭編『おもしろ思考のラボラトリー—認知心理学を語る3—』北大路書房，2001，pp.99-120
 - 15) E.B. ゼックミスタ，J.E. ジョンソン『クリティカルシンキング《入門編》』北大路書房，1996
 - 16) 赤松俊秀『親鸞』吉川弘文館 1961
 - 17) 岩崎武雄『哲学入門—現代の人間観—』有信堂，1966
 - 18) 梅原 猛『親鸞の告白』小学館，2006
 - 19) 三枝充恵『仏教入門』岩波新書，1990
 - 20) 真宗聖典編纂委員会編『浄土真宗聖典—注釈版—』本願寺出版部，1988
 - 21) 末本文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』新潮文庫，1996
 - 22) 大正大学総合仏教研究所「仏教の人間学」研究会編『仏教の人間観』北樹出版，2007
 - 23) 中村元ほか編『岩波 仏教辞典』岩波書店，1989
 - 24) 古田武彦『親鸞 人と思想8』清水書院 1971
 - 25) 星野元豊ほか校注『日本思想体系11 親鸞』岩波書店，1971
 - 26) 増谷文雄，梅原 猛『絶望と歓喜「親鸞」—仏教の思想〈10〉』角川文庫ソフィア文庫，1996
 - 27) 増成隆士『現代の人間観と世界観』東海大学出版会，1997
 - 28) 松岡正剛『17歳のための世界と日本の見方』春秋社，2006
 - 29) 松野純孝『親鸞—その行動と思想—』評論社 1971
 - 30) 水野弘元『仏教要語の基礎知識』春秋社，1972
 - 31) 村上陽一郎他『新しい人間観を探る』春秋社，2008
 - 32) 山折哲雄『親鸞をよむ』岩波新書，2007
 - 33) 和辻哲郎『人間の学としての倫理学』岩波文庫，2007
- i 広島大学附属福山中・高等学校HP (<http://www.fukuyama.hiroshima-u.ac.jp/>) 内の「研究開発 クリティカルシンキングを育成する教育課程 2009〜」(<http://fukuyama.hiroshima-u.ac.jp/2009-kaihatsu/2009-index.html>) を参照願う。
 - ii クリティカルシンキングについては，道田泰司「批判的思考—よりよい思考を求めて—」，森敏昭（編）『おもしろ思考のラボラトリー—認知心理学を語る3—』北大路書房，2001年，pp.99-120.を主に参考にした。
 - iii 鈴木 健ほか編『クリティカル・シンキングと教育 日本の教育を再構築する』世界思想社，2006年，p.173より抜粋。
 - iv 児玉康弘「「公民科」における解釈批判学習—「先哲の思想」の扱い—」，社会系教育学会『社会系教科教育学研究』第16号，2004年，pp.73-81 がその代表である。